

# 2018年9月期 第2四半期決算説明会

---

テーマ：業績好調の今、次の成長ステージに向けた仕掛けと備え

2018年5月11日

GMOペイメントゲートウェイ株式会社  
(東証一部 3769)

第53回

**GMO** PAYMENT GATEWAY

<https://corp.gmo-pg.com/>

# 当資料取扱上のご注意

---

本資料に記載された内容は、2018年5月11日現在において、一般的に認識されている経済・社会等の情勢並びに当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

# アジェンダ

---

1. 2018年9月期 第2四半期業績サマリー
2. 2018年9月期 通期計画
3. 経営目標及び経営要件
4. 今後の取り組みと成長戦略
5. 財務ハイライト
6. 参考資料等

---

# 1. 2018年9月期 第2四半期業績サマリー

# 1.1 業績サマリー

## 営業利益51.8%増 (Jベース+31.4%)、決済処理金額32.3%増が好調の証

(百万円)	2017年9月期 1H実績	2018年9月期 1H実績	前年同期比	2018年9月期 1H計画 <通期計画>	2018年9月期 1H計画達成率 <通期進捗率>
売上収益 (売上高)	10,028	12,558	+ 25.2%	11,967 <26,107>	104.9% <48.1%>
営業利益 (J-GAAP)	2,153 (2,536)	3,269 (3,334)	+ 51.8% (+ 31.4%)	3,011 <6,475>	108.6% <50.5%>
親会社の所有者に帰属する 四半期利益 (純利益)	1,357	1,962	+ 44.5%	1,825 <3,933>	107.5% <49.9%>
EBITDA <sup>※1</sup>	2,516	3,727	+ 48.1%	-	-

KPI <sup>※2</sup>	稼働店舗数 (2Q末)	決済処理金額 (2Q)	決済処理件数 (2Q)
	88,673店 <sup>※3</sup> (+ 4.2%)	約8,200億円 (+ 32.3%)	約3億2,700万件 (+ 25.0%)

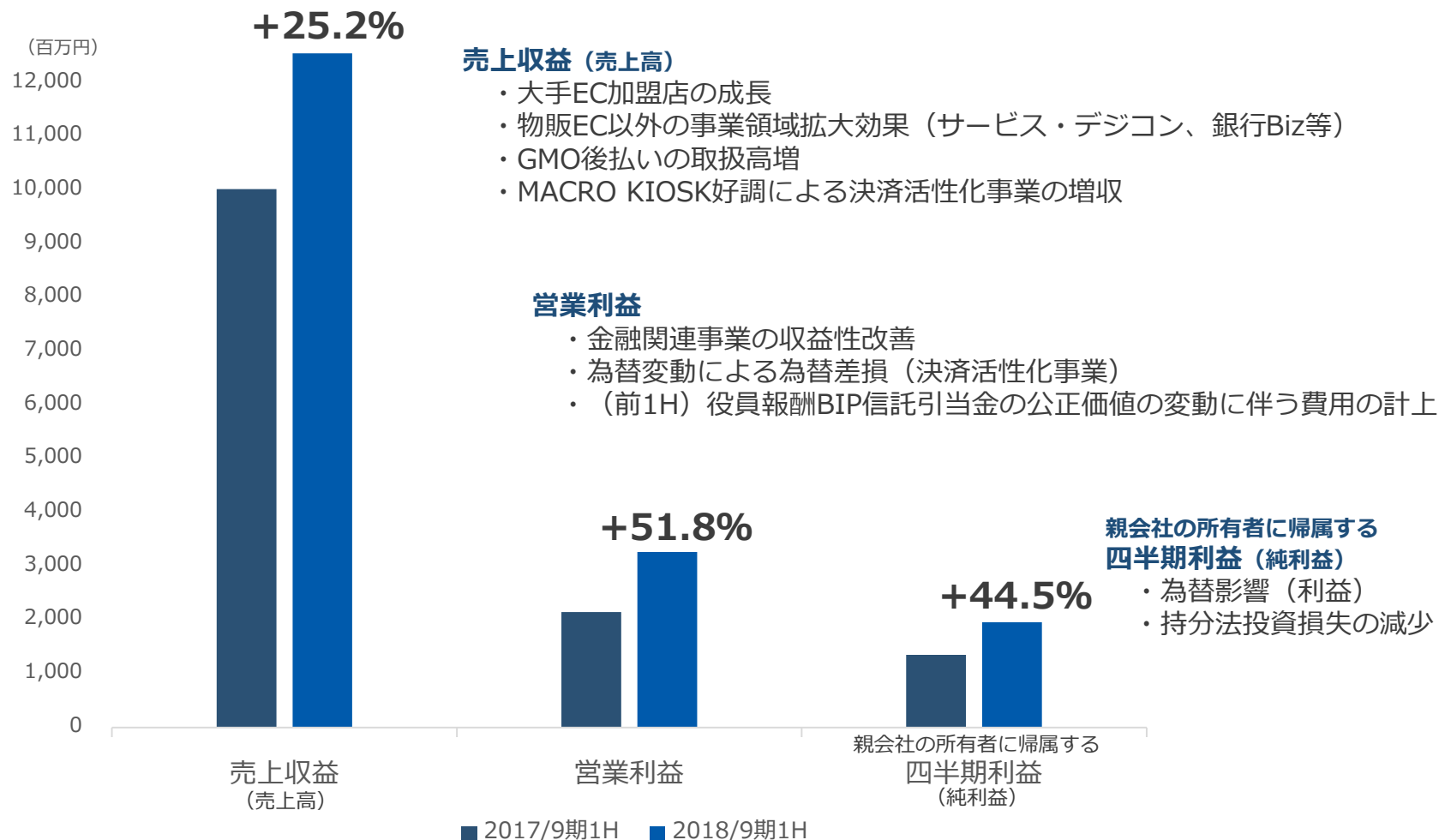
※1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※2 対面決済分は含まず、( ) 内は前年同期比

※3一提携先のサービス停止に伴うまとまった休止の発生により過去と比較し伸び率が鈍化 (当要因を除くと15.4%増)

## 1.2 業績の変動要因

### 第1四半期より連結財務諸表を国際会計基準（IFRS）にて開示

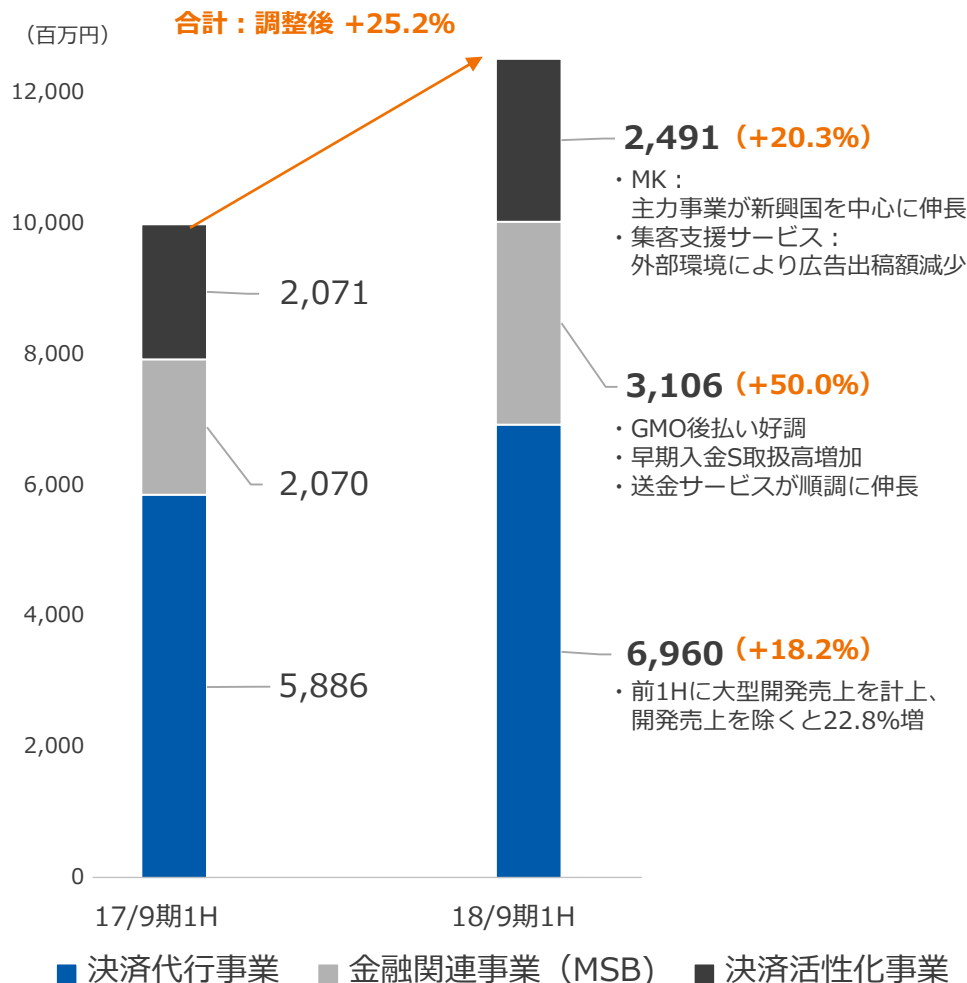


※GMO-PS：GMOペイメントサービス

# 1.3 セグメント別売上収益・営業利益

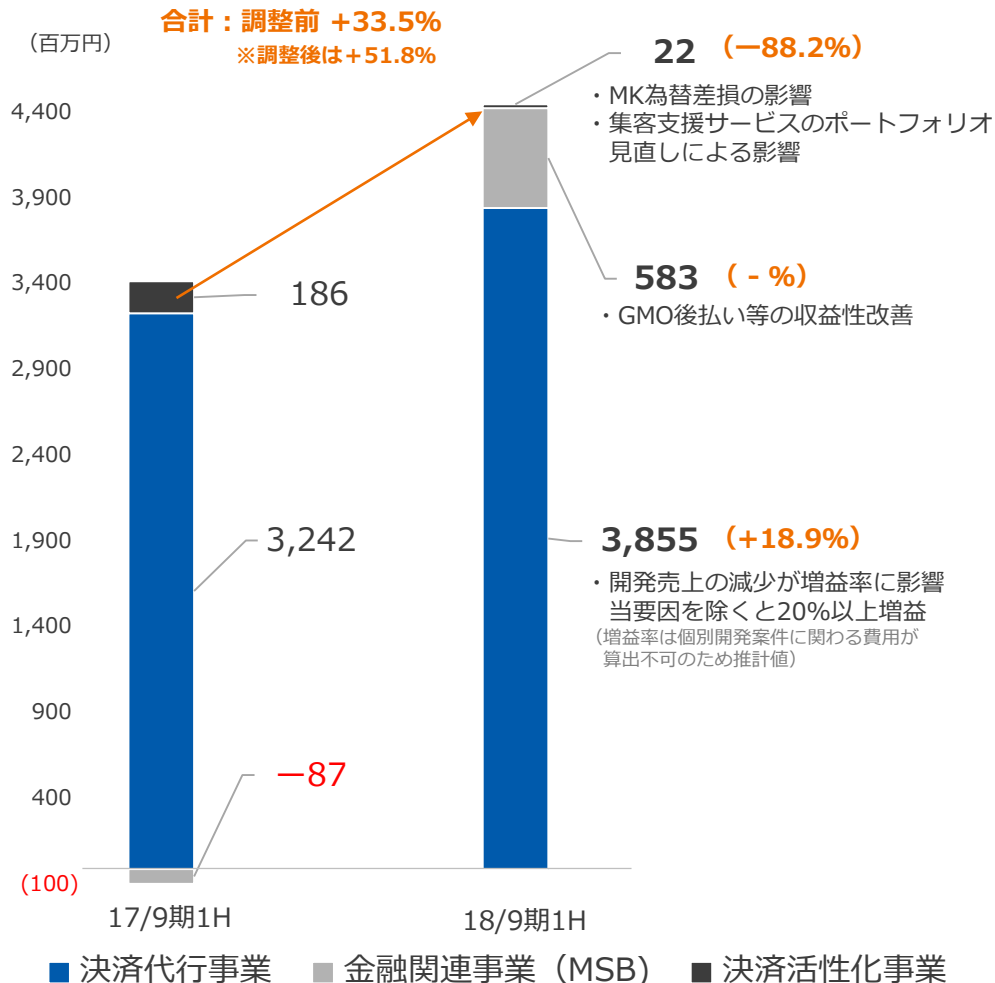
## 決済代行事業は実質20%以上増益、金融関連事業は黒字化

■ セグメント別売上収益



■ セグメント別営業利益 (連結調整前)

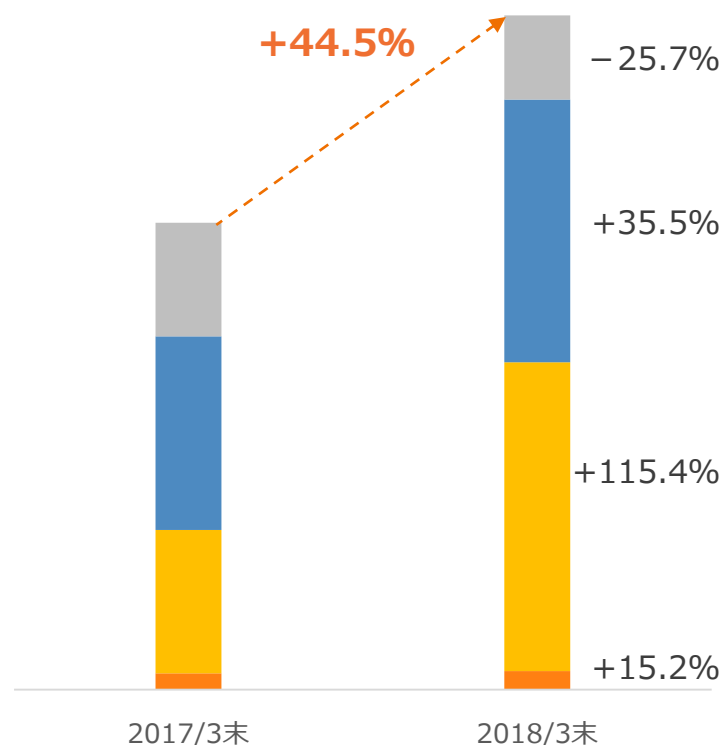
※ ( ) : 前年同期比



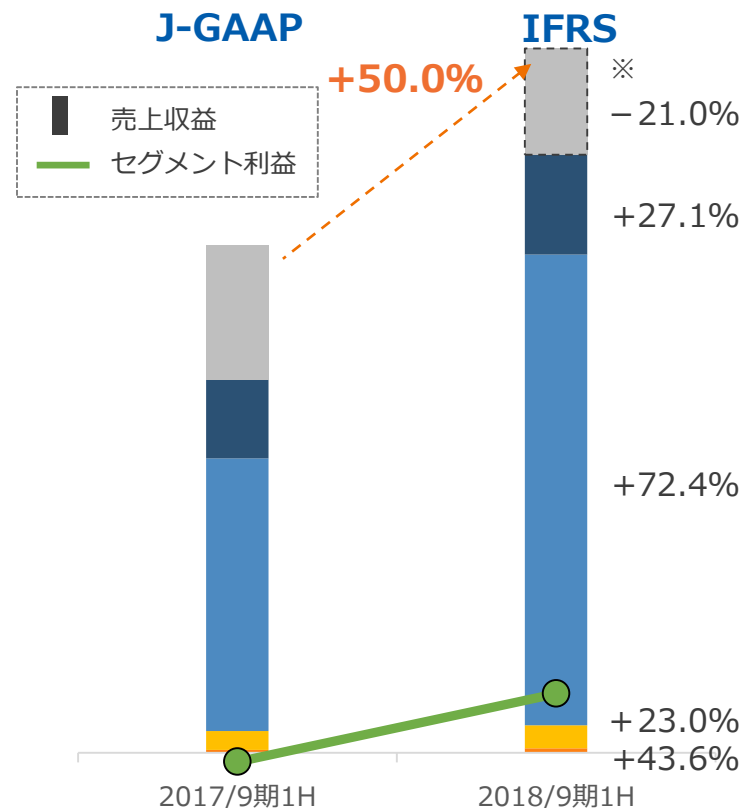
# 1.4 セグメント：金融関連事業

## 関連アセット44.5%増、収益性も改善されセグメント利益が黒字転換

■ 関連アセット推移



■ 関連売上収益推移



% : 対前1H増減率

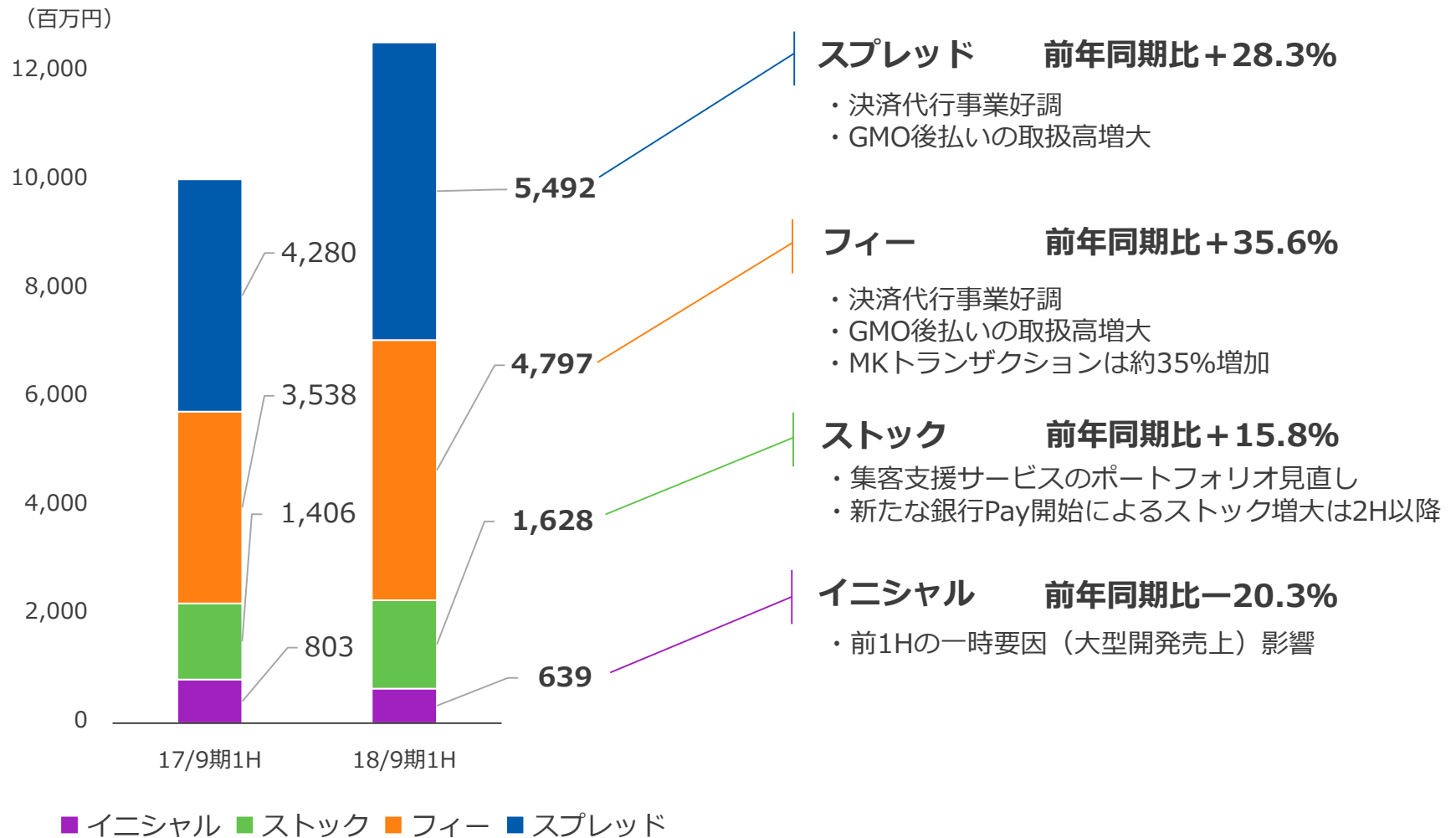
トランザクションレンディング 早期入金サービス GMO後払い ファイナンスリース 送金サービス セグメント利益

※ファイナンスリースの2018/9期1Hグラフは前年同期比較のための参考データ (IFRS適用により売上収益がネット計上に、当データは前期と同じ基準で集計)



# 1.5 ビジネスモデル別売上収益

## 決済処理金額・件数の増大によりフィー、スプレッドが好調



※MK : MACROKIOSK

---

## 2. 2018年9月期 通期計画

## 2.1 通期業績予想

### 営業利益（IFRSベース）は約64%成長を予想

#### ■ 2018年9月期

（単位：百万円、%は対前年度比増減率）

（百万円）	2017年9月期 通期実績	2018年9月期 通期予想	前期比※2	2018年9月期 1H予想
売上収益 （売上高）	21,054	26,107	+24%	11,967
営業利益 （J-GAAP）	3,948 （5,015）	6,475 （6,269）※1	+64% （+25%）	3,011
親会社の所有者に帰属する 当期純利益 （純利益）	2,430	3,933	+62%	1,825
年間配当金	40.0円	49.0円	+9.0円	-

※1 J-GAAPとIFRSの差分：

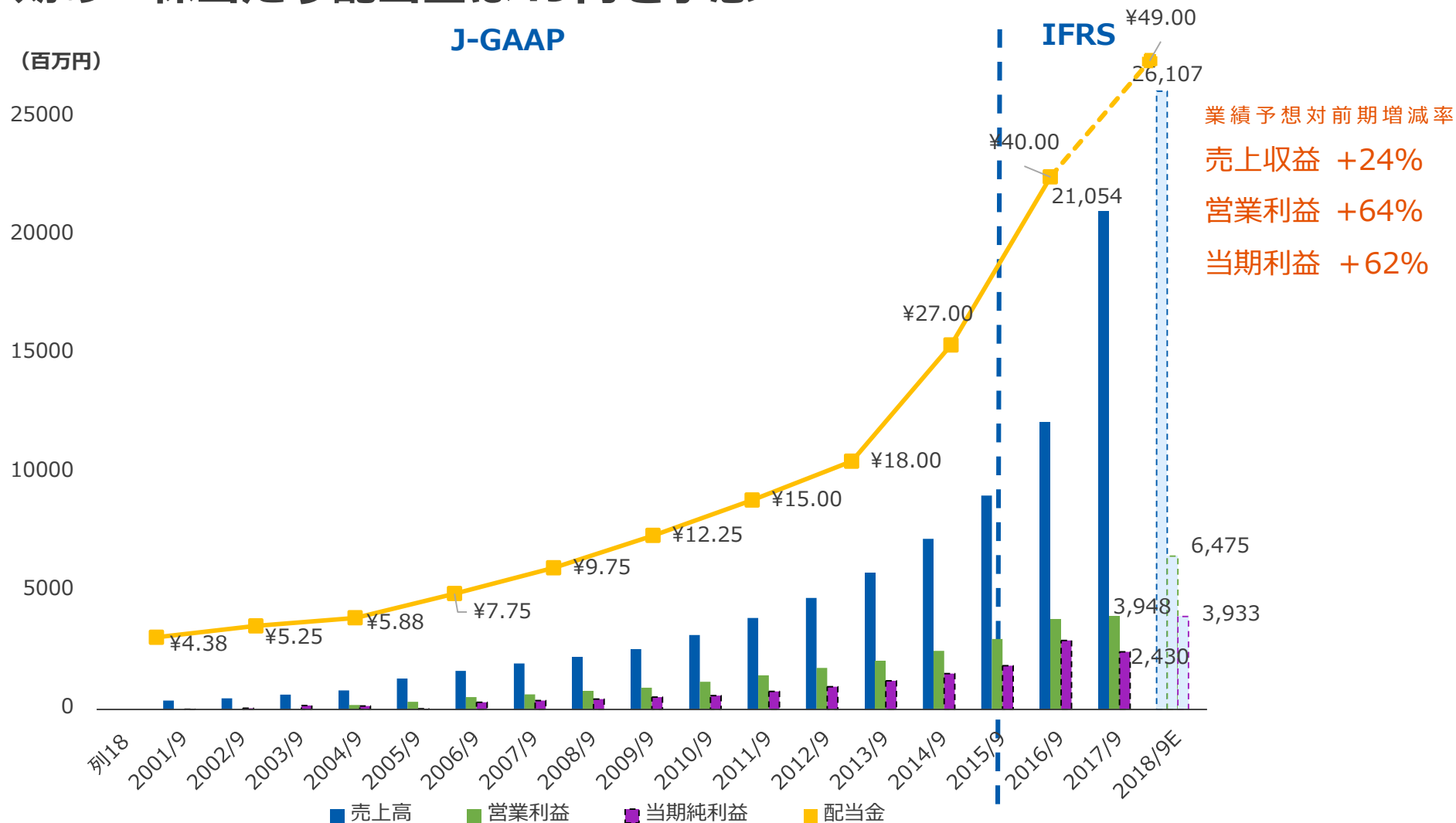
主に、役員報酬BIP信託にかかる引当金の公正価値の変動による影響（前期販管費の増加＝前期利益の減少要因）

※2 前期比は監査前の数値を元に算出した参考値

当社は当連結会計年度からIFRSを任意適用しているため、決算短信等では対前期比を記載しておりません。

## 2.2 連結業績推移サマリー

今期の一株当たり配当金は49円を予想

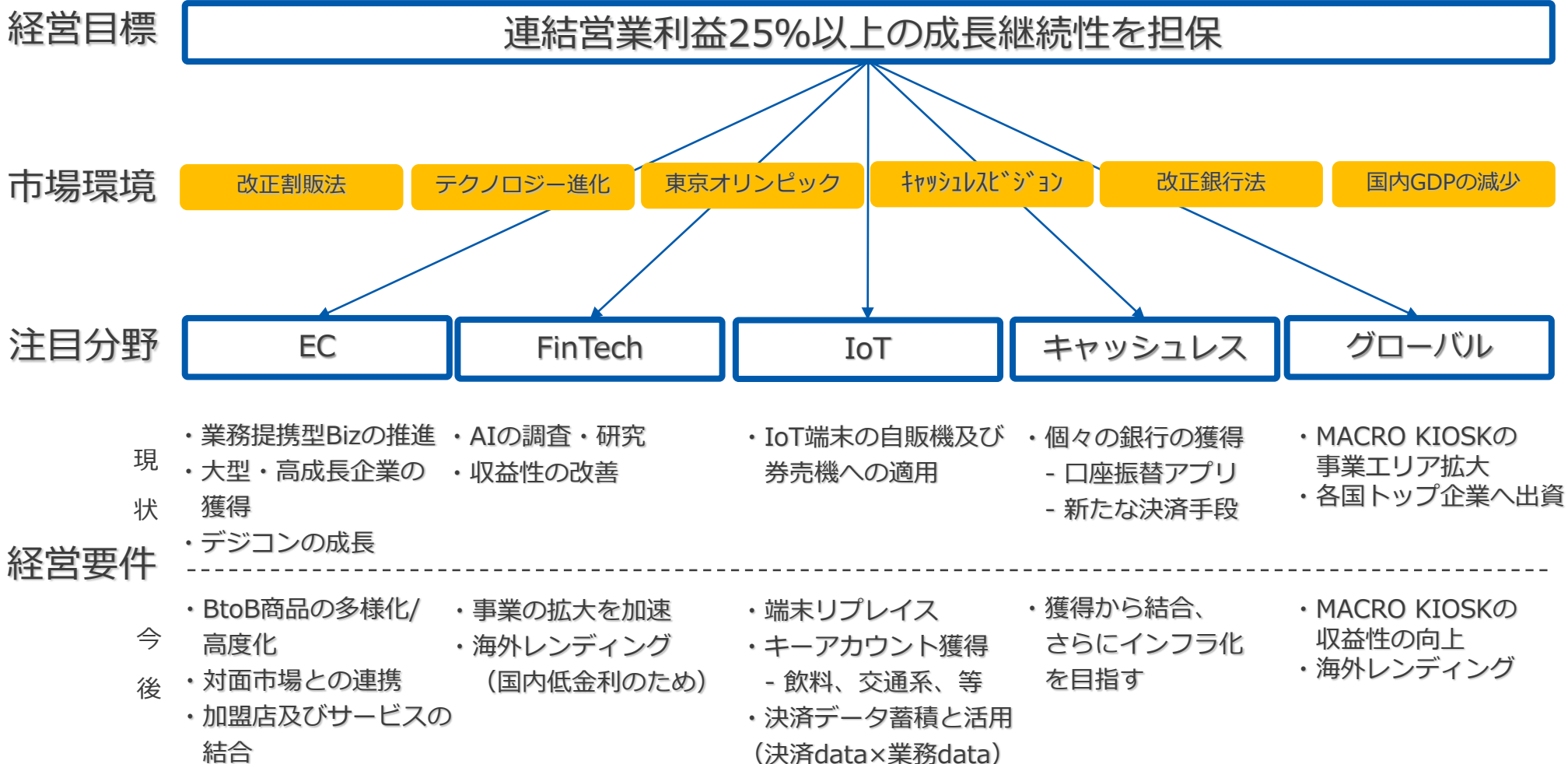


---

### 3. 経営目標及び経営要件

# 3.1 経営目標及び経営要件

5つの分野について戦略を推進し25%以上の成長継続を担保

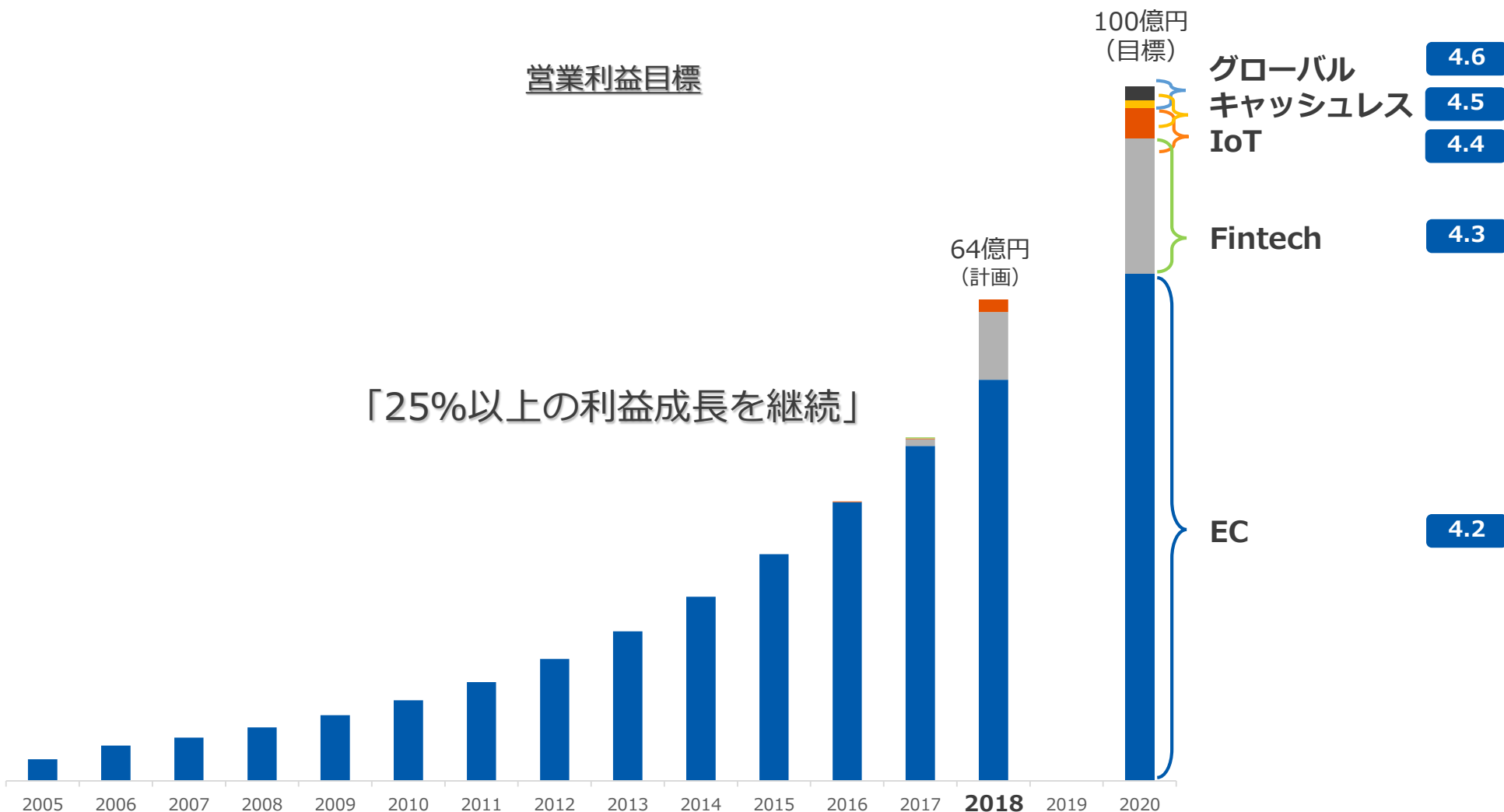


---

## 4. 今後の取り組みと成長戦略

# 4.1 2020年の営業利益目標

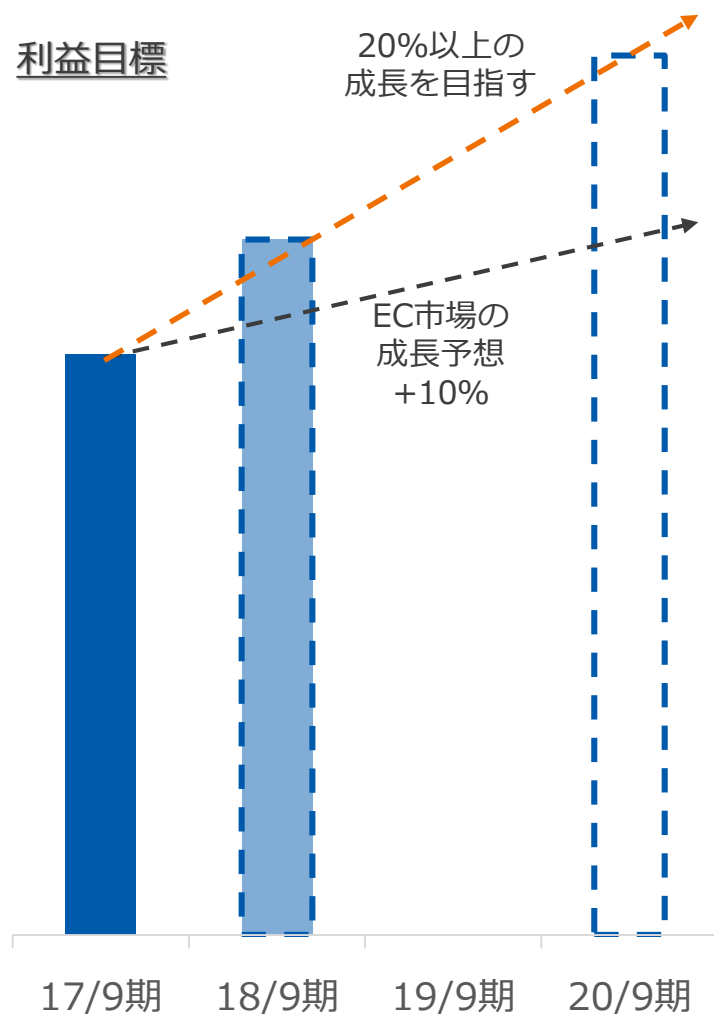
## 5つの分野で事業拡大、2020年9月期100億円の営業利益を目指す





## 4.2 EC : 20%以上の利益成長を継続

### 「勝ち組」の開拓と接続、BtoC EC以外の決済のオンライン化も推進



#### 市場見通し

	現在	2020 <sup>※</sup>
EC化率	5.8%	7~8%
EC市場	16.5兆円	22-24兆円
当社の決済処理金額	3兆円	→

※2020年数値は当社予想

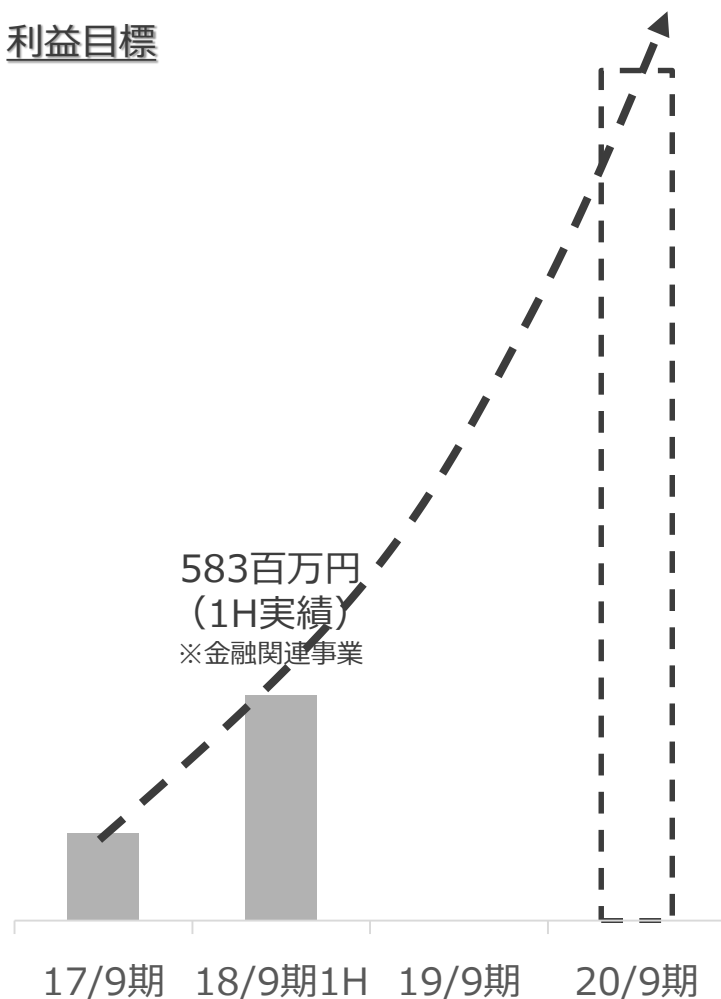
#### 今後の取り組み、成長戦略

- BtoB決済市場の着実な拡大  
商品の多様化 / 高度化  
導入事例を同業種内で横展開
- EC化がこれから進む業界に特化したサービス  
医療・建設・教育、等
- 新たな成長市場  
O2O / サブスクリプション  
インバウンド向けサービス

## 4.3 FinTech : 金融関連サービスの利益拡大

### 収益性改善、資本効率を見極めながら事業規模の拡大を加速

利益目標



#### 市場見通し

	現在	2020 <sup>※</sup>
後払い市場	4,000億円	1-1.2兆円
MSB残高	434億円	→

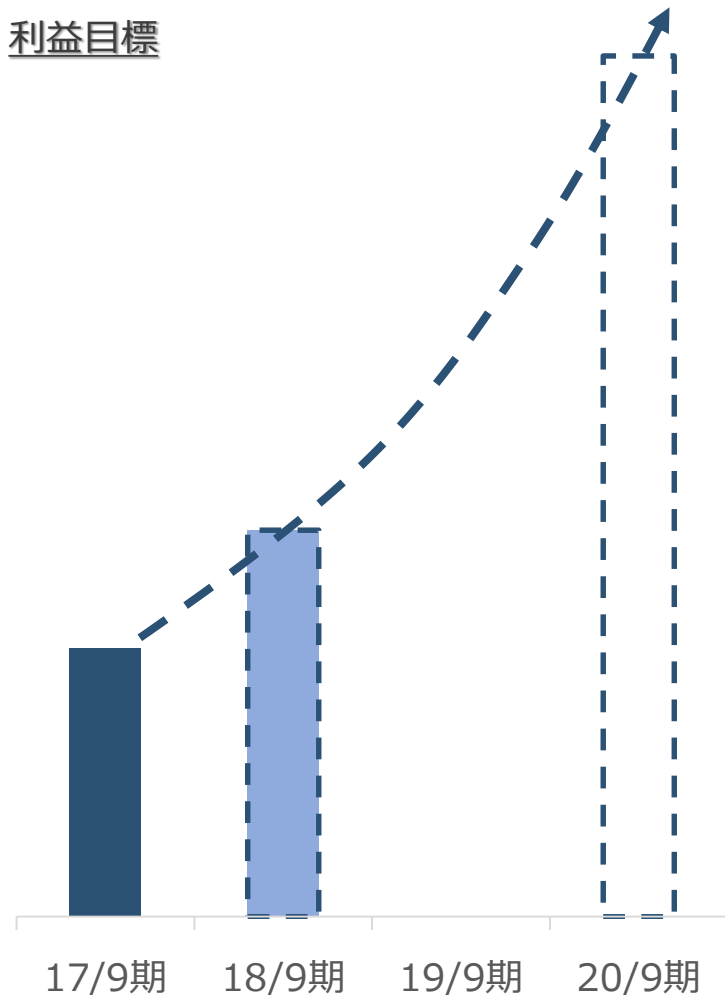
※2020年数値は当社予想

#### 今後の取り組み、成長戦略

- 試行・投資段階から利益回収ステージへ  
資本効率、収益性の高いサービスに資源投下  
関連アセットの健全な増大
- 決済とのシナジー（還流モデル）  
早期入金サービス/トランザクションレンディング
- 急成長を続けるCtoC市場へのアプローチ  
送金サービス
- 海外レンディング開始

## 4.4 IoT：決済でマネタイズ、変化をとらえ成長を加速

### 割販法改正によるIC対応端末、2020東京五輪を機会に高成長を実現



#### 市場見通し

	現在	2020 <sup>※</sup>
対面の キャッシュレス 市場	58兆円	87兆円

クレジットカード、デビットカード、プリペイドカードの合計

※2020年数値は当社予想

#### 今後の取り組み、成長戦略

- 対面決済の端末リプレイス需要  
磁気テープからICチップ対応へ
- IoT端末の拡販と決済データの蓄積・活用  
ターゲット：飲料メーカーや交通系、等  
決済と業務のデータ統合、事業効率向上に貢献
- 政府目標（2025年40%）  
経済産業省「キャッシュレスビジョン」

# 4.5 キャッシュレス：銀行ビジネスを拡大

## 個社を獲得し、サービスを結合し、インフラ化を目指す

### ■ 結合するメリット

#### 銀行

- ・ 決済データ蓄積の加速
- ・ 派生サービスの展開 (融資・送金等)

#### 加盟店

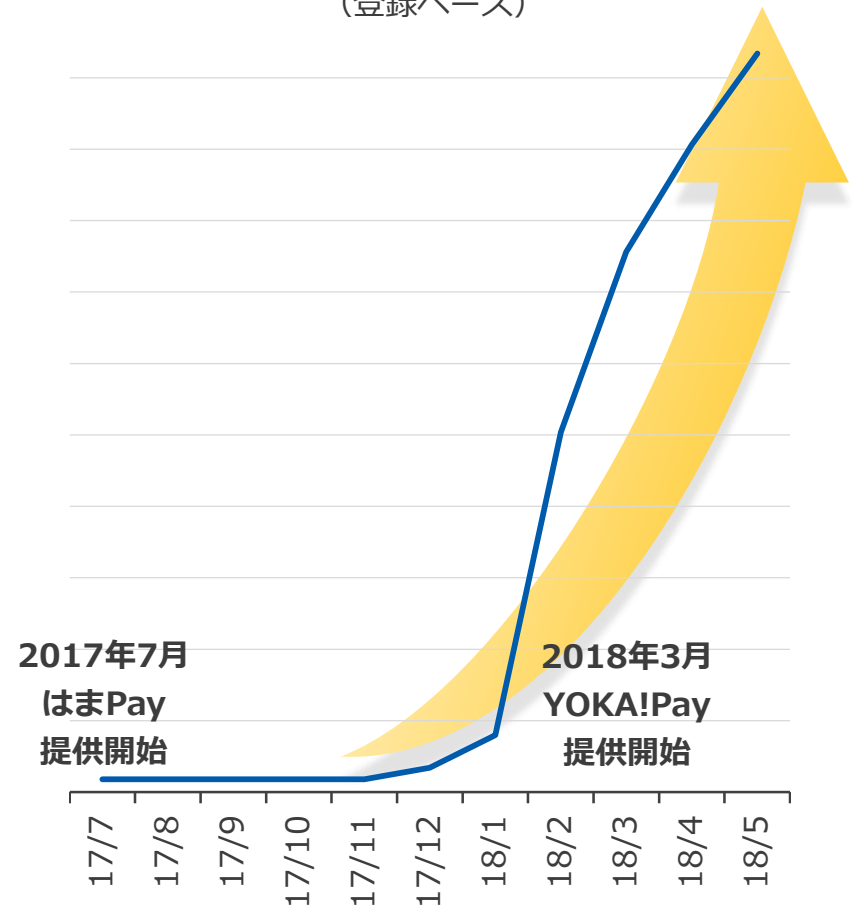
- ・ クレカ手数料の最適化
- ・ 顧客データ獲得の効率化

#### ユーザー

- ・ ユーザーインセンティブ (ポイント還元等)
- ・ 口座の一元化











銀行Pay導入行の全加盟店数推移  
(登録ベース)



## 4.6 グローバル：アジアにおける注力事業

### 各国の状況にあわせた最適なアプローチを組み合わせせて進捗

#### ■ アジア国別の戦略ポートフォリオ

国	経済規模※ (兆円)	発展段階	アプローチ	主な投資/事業 ポートフォリオ
台湾	60	後期	<u>決済代行事業（日系企業の進出支援）</u>	
マレーシア	30	後期	<u>決済活性化事業（銀行・大手企業獲得、開発拠点）</u>	
シンガポール	30	後期	統括・調査・出資機能（有望企業への投資&研究開発）	Jewel  Paymenttech
タイ	50	中期	決済代行事業（現地トップ企業の持分取込）	 
インド	250	前期	現地有望企業への投資、橋頭堡確保	 
インドネシア	100	前期	<u>決済活性化事業（銀行・大手企業のトランザクション確保）</u>	
ベトナム	20	前期	現地有望企業への投資、橋頭堡確保	
フィリピン	30	前期	<u>決済活性化事業（銀行・大手企業のトランザクション確保）</u>	

2018年3月出資  
AI活用不正利用検知

※名目GDP概算

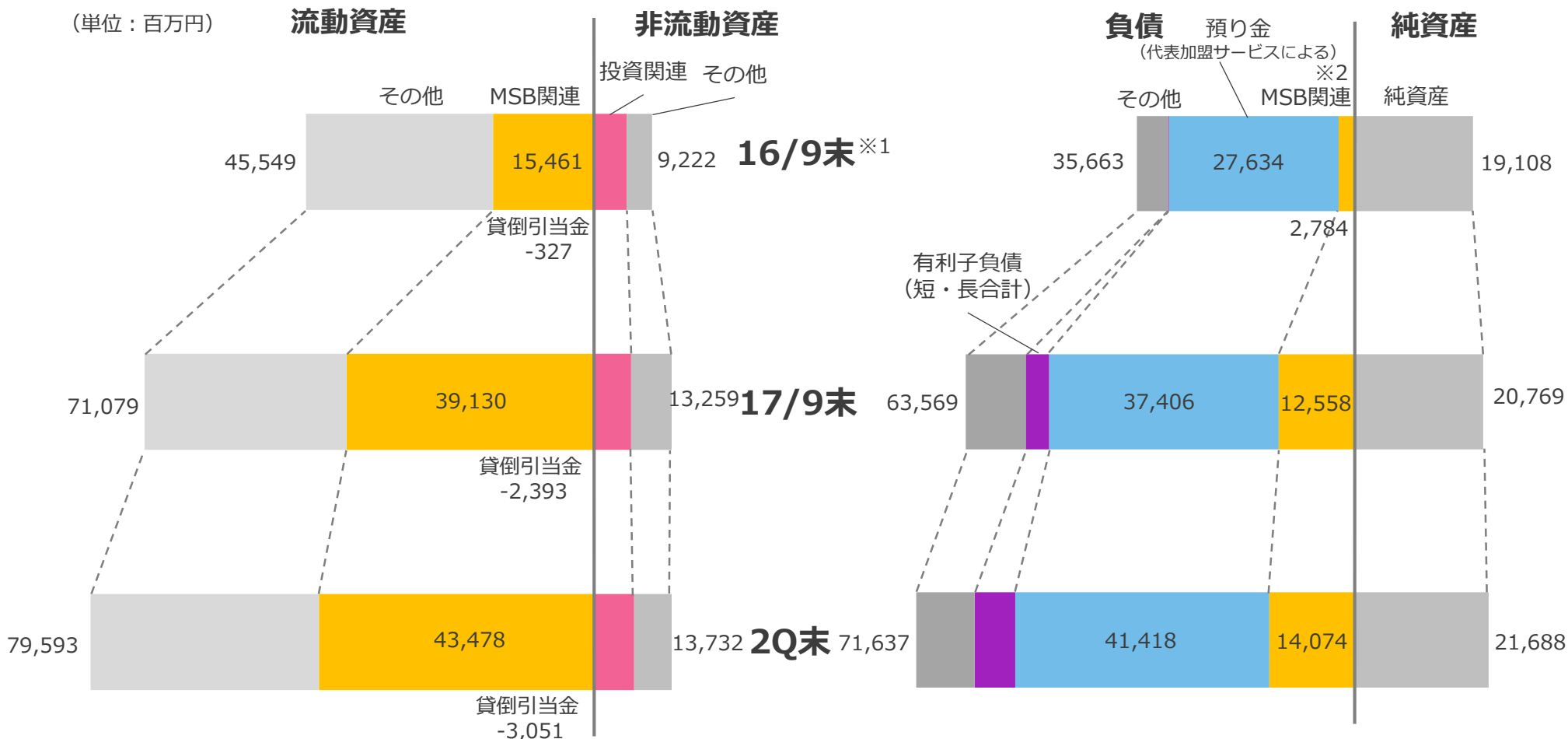
下線部：連結子会社、自社プロダクトの展開

---

## 5. 財務ハイライト

# 5.1 B/Sの変化

## 預り金及びMSB関連アセットの増加



※MSB関連資産：リース債権、短期貸付金、前渡金、未収入金

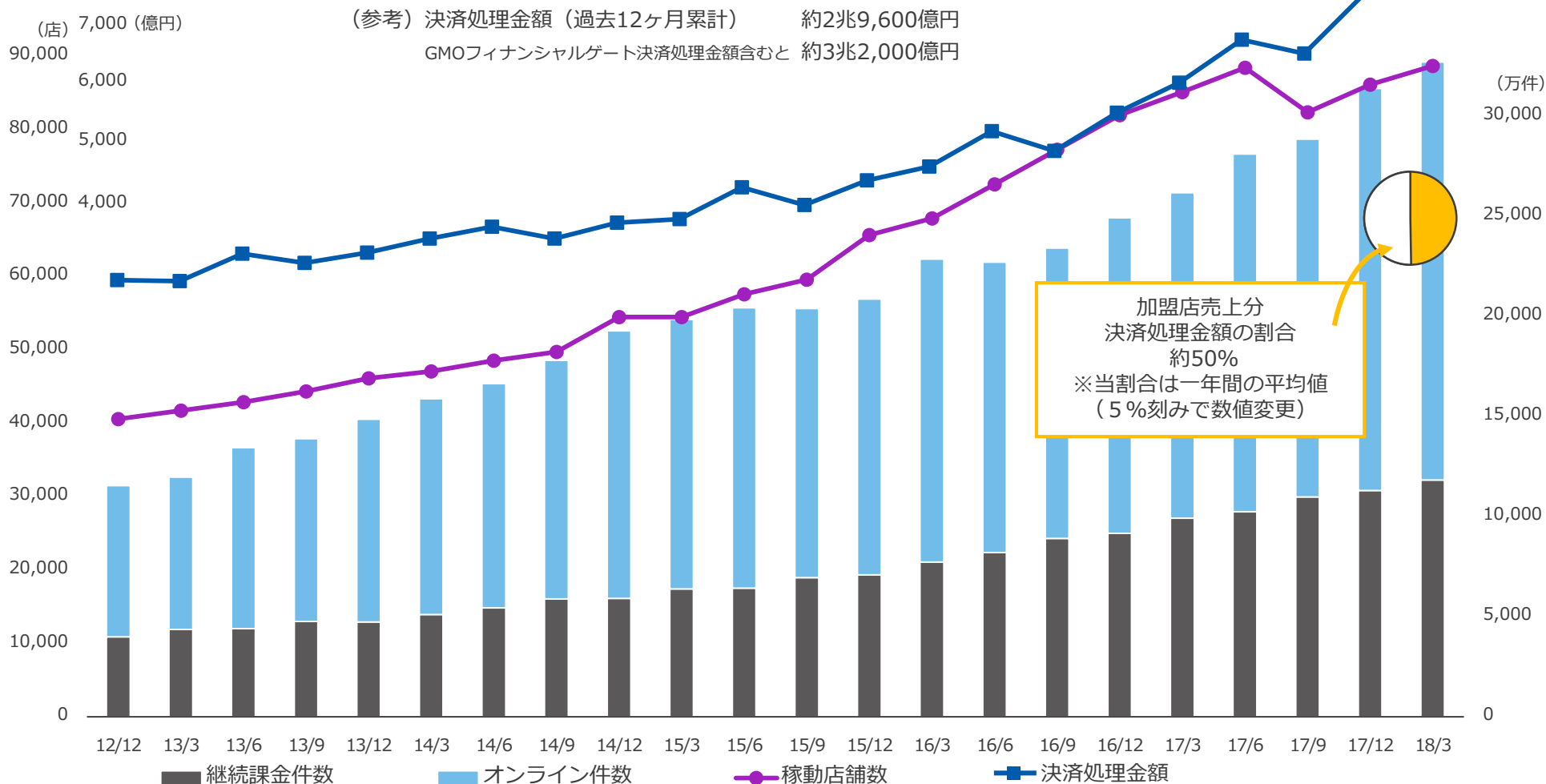
※1 2016年9月期の会計基準はJ-GAAP

※2 MSB関連負債：未払金

# 5.2 主要KPI推移 (四半期推移)

## 年間決済処理金額は約3兆2千億円に

稼働店舗数 88,673店、決済処理金額 約8,200億円、決済処理件数 約3億2,700万件



※一提携先のサービス停止に伴うまとまった休止の発生により、17/9末稼働店舗数は17/6末比減少 ※稼働店舗数は四半期末時点、決済処理金額・件数は各四半期毎の実績



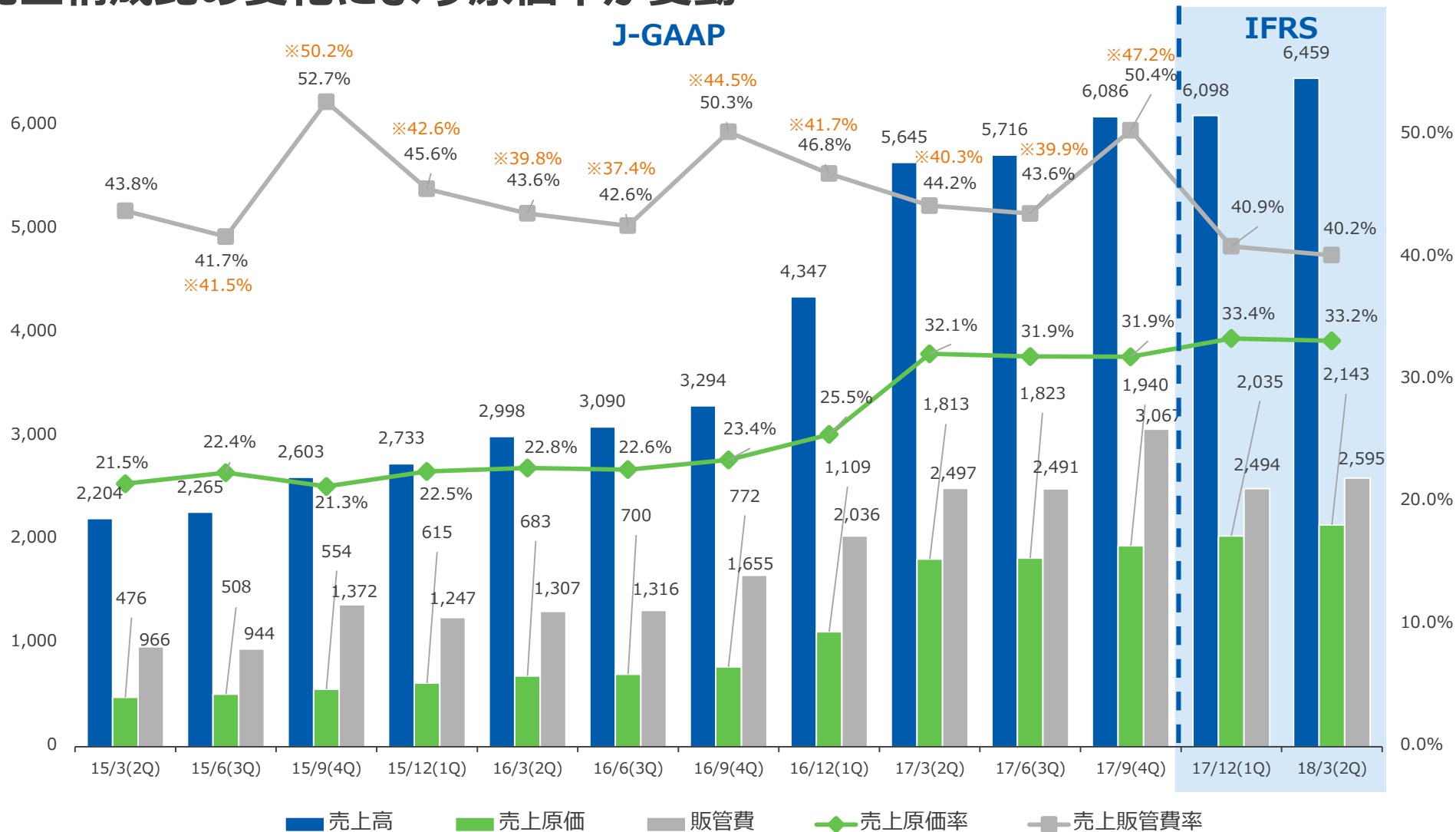
---

## 6. 参考資料等

# 6.1 売上原価率・販管費率（四半期推移）

## 売上構成比の変化により原価率が変動

※MSBに関わる発生外部費用を除いた値  
 会計基準変更につき、17/12(1Q)より販管費に含まれない

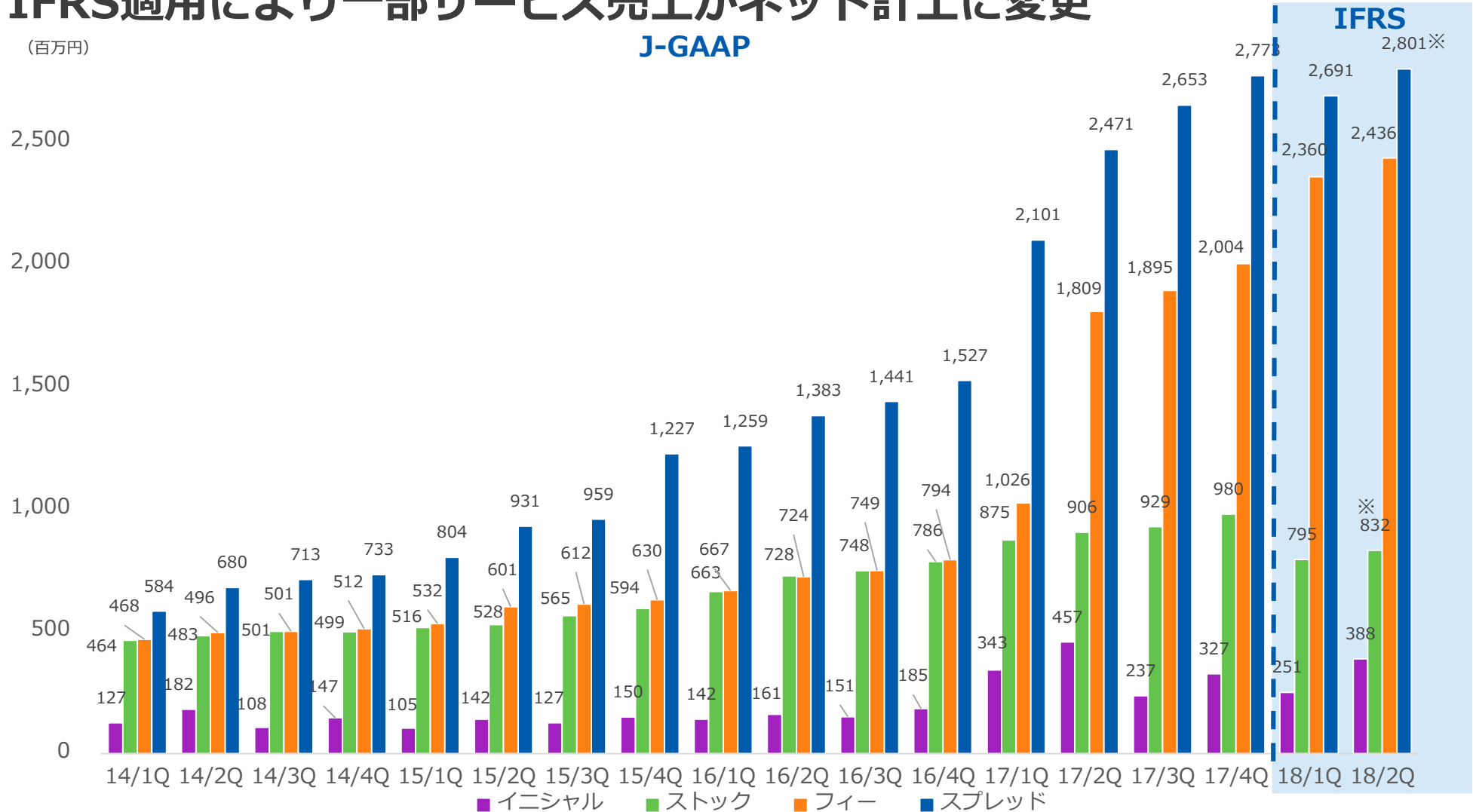


## 6.2 ビジネスモデル別売上（四半期推移）

### IFRS適用により一部サービス売上がネット計上に変更

(百万円)

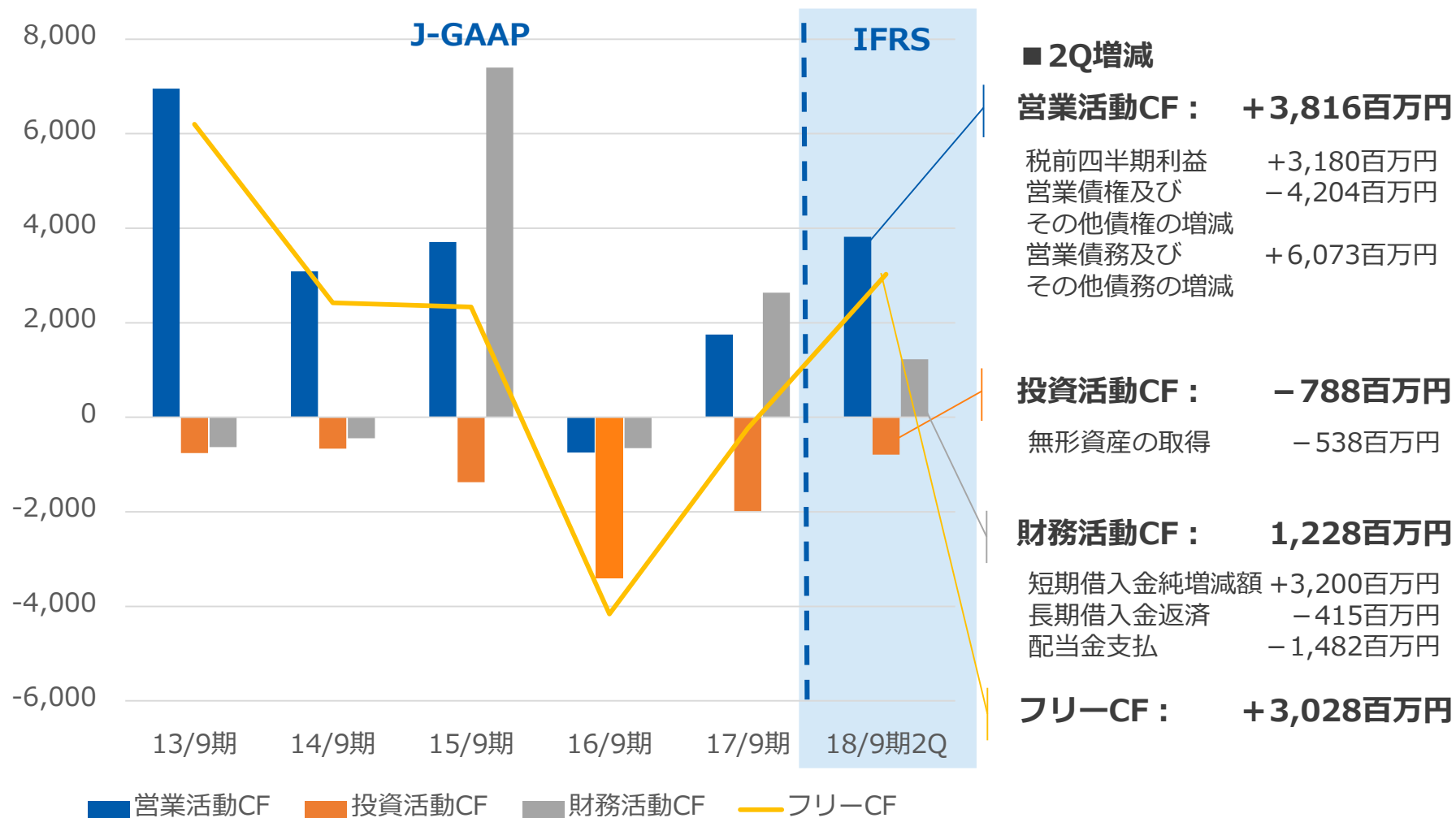
J-GAAP



※集客支援サービス（ストック）とファイナンスリース（スプレッド）の売上計上基準がIFRS適用によりグロスからネットに変更

## 6.3 連結キャッシュフロー計算書

### 利益成長と預り金の増加により営業CFはプラス



# ありがとうございました

## **GMO** PAYMENT GATEWAY

---

GMOペイメントゲートウェイ株式会社  
(東証一部 3769)

IRサイトURL <https://corp.gmo-pg.com/>

お問合せ・個別取材のお申込みは、企業価値創造戦略 統括本部 IR室までご連絡ください。

IR室 TEL:03-3464-0182